

# 藤波こども園

園だより No.77 令和3年12月23日発行



旧 藤波幼稚園 現 藤波こども園

## 子どもの力と大人の仕事



我が園では、子ども達にとって運動会も発表会も一回きりのものではない。終わってから子ども達の思いが次々にわき出し、楽しかったからもう一度やろうとか、〇〇さんが休んでいたからもう一回やろうなどと多くの思いでをみんなで共有しようとする動きが起こることが多い。先日その発表会が終わった。すると子ども達の中から声が出てきた。

発表会当日は子ども達にとっては他学年の発表を見ることは出来ない。発表会直前の練習は見る事が出来るがタイミングが悪かったり、欠席があったりすると見ずに終わってしまう。あるホームの年長の女兒が、ホームの花組に見てもらっていないと先生に告げた。「そやなあ。どうする」女兒は同じ思いを持つ月組の他の友達にも伝え、ホームの帰りの会で花組の子ども達に見に来て欲しいと訴えた。もう一回やろうである。「見ていない人がいるので見たい人だけでもいいから見に来て下さい」と伝え、発表の日と時間を決めた。結局花組と星組と殆どみんなが見に来た。劇の最後、子ども達の作った大きな虹が現れると観客席からは、「わあーきれいやなあ」とフィナーレに感動する声が上がった。その後も、「□□くんの声がすごくよく聞こえた」「◇◇くんのあのシーンがめっちゃかっこよかった」などと年中・年少の子ども達から声がかかる。小さくても子ども達はそれぞれの良さをよく見つけて指摘している。誉め言葉がいっぱい出てくる。年長の子ども達にとっては心躍る充実の瞬間だ。

ある年長女兒は「楽しかったー ありがとう」と先生に抱きつき喜びを爆発。その日欠席してしまった友達の分も演じて大満足であった。欠席で少々人が欠けても子ども達はその代わりをどんどんこなす。いつもの事ながら自分たちで作る劇なのでストーリーや台詞の殆どがわかっており人の分も容易に演じることが出来るのだ。家庭からもそうした子ども達のうれしさが伝わる連絡があり家庭でもしっかり子ども達の成長を見守ってもらっていると安心した。今年もまた子ども達は自分たちで意見をぶつけ折り合いをつけ自分たちにしかできない藤波の発表を作り上げてくれた。小さな子ども達ではあるが力は持っている。その力を如何に発揮させ伸ばすかが我々大人の仕事だ。





# 嬉しい真砂土運び



0・1歳児の子ども達が遊ぶ土には砂場の砂より真砂土がいいというので運んできた。小さな子どもたちにとっては力の無い手で握っても比較的固まりやすく、水を受け入れやすい、それでいて乾いているとさらさらする真砂土が子どもたちの発達過程には適しているというのだ。しかし、ブランコ周辺やすべり台の降り場にも使ったため肝心の桃組の遊び場の土が少ないように思った。先生達はありがとうございますとお礼を伝えてくれるが、心なしか満面の笑みで無いように思った。私が感じた少し少ないかなとの思いはあたっていき勝手に解釈し2回目の運搬となったのである。

軽トラのタイヤの空気圧をスタンドで高めてもらい梅の子運動公園近くの採石プラントへ、今回は空気しっかり入れてきたからと担当者に伝えると大きなバケツから軽トラの後ろにドドーン・ぐらぐらとかなりの衝撃。どうやら大サービスのような。何とか走り出したが、前回よりかなり多い。交差点手前でのブレーキは本当に効かない。仕方なく、できるだけ通行量の少ない道路を選んでゆっくり走る。

何とか園までたどり着き砂を下ろしにかかる。先生達が手伝いに出てきてくれる。皆ですると早い。下ろし終わるとさすがにいっぱいになった。

後日、市の子育て支援課から巡回訪問があった。子ども達が山盛りいっぱいになった砂場で遊ぶ姿を見ながら指導の先生は「いいですよ。この真砂土の方が小さな子ども達のためにはいいとわかってそれをこうして設置してもらえるなんて」と話しかけてくれた。訪問を受けた園の先生が2回の真砂土を運んだことを説明したのだろう。たいした労力や金額ではないのだけれど、子どもを思い先生達が希望したことを実現させていく。それを喜んでもらえるのだから本当にうれしい事だ。



## いただきました ありがとうございます

- ☆ 葉ボタン JA女性部
- ☆ パンジーの苗 青柳小学校児童会
- ☆ イチゴ苗 朽木 嶋崎ひな子さん
- ☆ タマネギ苗 青柳 保護者さん



## ご結婚

## おめでとうございます

パンダホーム担任の家本侑奈先生が  
11月28日に結婚され、  
【清水】侑奈先生と  
なられました。  
新たな人生に乾杯！

